Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

学校教育法第 115 条には，「高等専門学校は深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と記載されている。また，独立行政法人国立高等専門学校機構法第１章第３条では，「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する」ことが目的にあげられている。本校では，これらを念頭に置いて，学則第１章第１条にて本校の目的を明確に設定（資料１－１－①－１）するとともに，「将来性のある人間性豊かな実践的研究開発型技術者を養成する」という明確な教育理念（資料１－１－①－２）を掲げている。そして，上記の目的や教育理念を達成するために，準学士課程及び専攻科課程の教育目標（資料１－１－①－３）を掲げている。本校には，それぞれの個性を持つ４つの専門学科と，全学科の基礎を担当する一般科が設置されており，それぞれの学科・科は，本校共通の目標や人材育成の実現に向けた，より具体的な教育目標を掲げている（資料１－１－①－４）。

専攻科は，生産システム工学専攻と応用化学専攻との２専攻から構成され，前者は，準学士課程の機械システム工学科，電気情報工学科及びシステム制御情報工学科を基盤とした複合型専攻であり，後者は，物質化学工学科を基盤とした単独専攻である。それぞれの専攻においても，具体的な教育目標が掲げられている（資料１－１－①－５）。

更に，本校が平成 16 年度に，工学（融合・複合，新領域）分野で JABEE の認定を受けた「環境・生産システム工学」教育プログラムにおいても，このプログラムが目指している技術者像とその育成のための教育目標が明確に設定されている（資料１－１－①－６）。

資料１－１－①－１

「旭川工業高等専門学校学則（抜粋）」

第１章　目的

第１条　旭川工業高等専門学校（以下「本校」という。）は，教育基本法（平成18年法律第120号）の精神にのっとり，かつ，学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　本校ウェブサイト例規集）

資料１－１－①－２

「旭川工業高等専門学校の教育理念」

将来性のある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成する。

（出典　平成23年度学生生活のしおり前書き）

資料１－１－①－３

「旭川工業高等専門学校の教育目標」

【本科】

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

② 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

【専攻科】

社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における５年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

（出典　平成23年度学生生活のしおり前書き）

資料１－１－①－４

「各学科(科)の教育目標（平成 23 年度～）」

（平成 22 年度第７回教務委員会了承
平成 22 年度第８回運営委員会報告）

機械システム工学科

機械システム工学科では，「機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付け，さらに，各々の技術要素を有機的に構成し，新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者」の育成を目指しており，以下の教育目標を掲げている。

① 機械工学に関する基礎的・専門的知識を身に付ける。
② 機械システムを創造する能力を身に付ける。
③ 課題の発見と問題解決のできる能力を身に付ける。
④ 社会環境との調和を多角的に考察できる能力を身に付ける。
⑤ 幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

電気情報工学科

我々の社会，経済，生活が，インターネットの急速な発展によって大きく変わろうとしている。また，半導体技術の発展によって，コンピュータはあらゆる電子機器の中に部品のレベルで組み込まれ，それらが通信ネットワークと有機的に結びついて制御されるユビキタス情報社会を形成しようとしている。このような情報社会では，電気・電子技術をベースとする情報技術者の養成はますます重要になっており，電気情報工学科では以下の教育目標を掲げている。

① 電気電子工学の基礎である電磁気学，電気回路，電子回路等の知識を修得させ，その上に半導体工学や電力工学等の専門的能力を身に付けさせる。
② 情報工学，計算機工学等の情報技術を修得させ，ソフトウェアプログラミングやネットワークシステムに関する専門的能力を身に付けさせるとともに，電気電子技術と情報技術とが融合する新技術分野に柔軟に対応できる技術者を育てる。
③ 技術が社会に与える影響や環境について考えることができ，電気・電子・情報技術を用いてエネルギー,環境問題にアプローチできる技術者を育てる。
④ 電気・電子・情報分野での問題解決能力を高めるため，国際的視野をもった技術者を育成するとともに，コミュニケーション・プレゼンテーション能力を養う。

システム制御情報工学科

コンピュータ及び情報技術は，電化製品や自動車等の産業製品，それら製品を製造する生産機械や産業ロボット，さらには金融・物流システム等に組み込まれており，現代社会にとって欠くことのできない基盤技術である。コンピュータの応用技術は，その構成要素であるマイクロプロセッサ，電気・電子部品，機械部品等のハードウェア技術と，これらをシステムとして有機的に結合し目的の機能を発揮させるソフトウェア技術から成り立っている。したがって，それらを統合するためには，機械・電気・情報をはじめとする多様な領域にまたがる知識とシステム制御の技術を身に付けることが必須である。このような複合領域にまたがる技術に対応できる技術者への社会的・国際的要請は，今後もますます強くなると考えられる。

システム制御情報工学科では，「コンピュータ中心のシステム作り」をキーワードとして，情報技術と機械工学，電気工学等の基礎が融合した複合領域分野で活躍できる国際的視野を持った技術者を育成することを目的とする。具体的には，以下の項目を教育目標とする。

① コンピュータ応用技術に関する専門科目と実験・実習を通して，コンピュータを道具として自在に操る情報技術を持たせる。
② 機械工学，電気・電子工学に関する専門科目と実験・実習を通して，ものづくりの基礎となる知識を習得させるとともに，ものづくりのセンスを磨かせる。
③ 情報技術，機械工学及び電気・電子工学を融合させた分野である画像・計測システム，情報システム，制御システム，メカニカルシステム等の複合領域の技術を持たせる。
④ 卒業研究を通して，学んだ知識を総合的に応用して国際的視野を持って創造する力を育てる。

物質化学工学科

我々の生活を便利で快適にしている高機能で多機能な様々な製品は，化学の力によって生み出された優れた材料を基盤としている。将来にわたってこのような豊かな生活を続けていくためには，材料及び製品の開発，製造，利用，廃棄の過程での省エネルギーと地球環境に負荷をかけない技術の開発が重要となっている。また，有限な資源の利用だけでなく，生物の力を利用した再生可能な資源やエネルギーを有効に使った，持続可能な社会の構築も重要な課題となっている。物質化学工学科は，食品，医療，環境保全，エネルギー，情報，材料等，現代生活を支えるあらゆる分野に貢献できる，国際的視野を持った技術者の育成をめざして，以下のような教育目標を掲げている。

① 化学及び生物分野の基礎的知識を，実験等を通して十分身に付けさせる。
② 化学及び生物分野の専門的知識を基に，幅広い視野に立って地域社会や社会全体に貢献できる能力を身に付けさせる。
③ 人間と自然環境との関わりを理解し，科学技術がそれに与える影響を自覚できる能力を身に付けさせる。
④ 様々な分析機器や情報機器を積極的に活用して，諸問題に取り組む能力を身に付けさせる。

一般人文科

一般人文科では，一般理数科や専門学科と協力しながら教養豊かな人間性の涵養を図り，また，専門科目の内容を十分に理解できる基礎学力を育むため，以下のような教育目標を掲げている。

① 日本語や外国語によるコミュニケーション能力を高め，異文化を理解する力を育成する。
② 現代社会の仕組みや特質を理解するとともに，科学技術が及ぼす影響を考えてその社会的責任を自覚する技術者倫理を育成する。
③ 自律性・創造性に富み，地球的視野で物事を考え，地域社会に貢献し得る能力を育成する。
④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付け，社会人として必要な心身の健康維持，増進に努める態度を育成する。

一般理数科

一般理数科では，一般人文科や専門学科と協力しながら教養豊かな人間性と創造性の涵養を図り，また，専門科目の内容を十分理解できる基礎学力を育むため，以下のような教育目標を掲げている。

① 数学・自然科学の原理や法則を理解し，科学的で論理的な思考能力を育成する。
② 絶え間なく進歩する科学技術に，将来とも対応できる能力を育成する。

（出典　平成 22 年度第 7 回教務委員会資料）

資料１－１－①－５

「各専攻の教育目標（平成 20 年度～）」

（平成 19 年度第 16 回専攻科委員会了承
平成 19 年度第 11 回運営委員会報告）

生産システム工学専攻

機械システム工学科，電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし，それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し，メカトロニクス，エレクトロニクス，コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

応用化学専攻

物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし，化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し，製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる，総合的能力を備えた技術者を育成する。

（出典　平成 19 年度第 16 回専攻科委員会資料）

資料１－１－①－６

〔「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標〕

A）地域社会，産業社会の様々な要求に応える情報機器・分析機器を使いこなし，新しい技術に対応できる能力を持った技術者の育成

Ａ－１）数学・自然科学・情報技術に関する知識を有し，それを活用することができる。

Ａ－２）基礎工学の知識・能力をもとに，地域や社会の要求を理解し分析することができる。

Ａ－３）基礎的実験・実習技術を習得し，必要とされるスキルと知識を活用することができる。

B）つねに日本及び世界の歴史，文化を視野に収め，科学技術が社会や自然環境に及ぼす影響を考察し，その社会的責任を自覚する技術者倫理を持った技術者の育成

Ｂ－１）文化の多様性を認識するとともに，日本の文化について理解し，説明することができる。

Ｂ－２）地球的視点から多面的に考え，教養を高めるための努力を継続することができる。

Ｂ－３）専門分野の立場から職業的倫理を持ち，自己の技術行為が及ぼす影響について考察することができる。

C）論理的思考に支えられた明晰な日本語によって記述し，発表する能力，学会等において討議できるコミュニケーション能力及び国際的な場でのプレゼンテーション等の基礎的コミュニケーション能力を持った技術者の育成

Ｃ－１）適切な日本語を用いて，記述・発表・討議することができる。
Ｃ－２）外国語による基礎的コミュニケーションができる。
Ｃ－３）英語による技術論文や取扱説明書等を理解することができる。

D）多様な工業技術システムを理解し，地球環境にやさしい技術や研究開発を企画，設計，デザインする能力を持った技術者の育成
Ｄ－１）基礎工学及び専門工学に関する知識・能力を有し，それを活用することができる。
Ｄ－２）データを分析・解釈し，結論を導き出すことができる。
Ｄ－３）工学全般の知識・技術をもとに，環境に配慮した技術や研究を企画し，デザインすることができる。

E）多角的な視点で自ら考え，新たな価値を創造・開発でき，それをシステム化し，あるいは再構築する能力を持った技術者の育成
Ｅ－１）共通的工学関連分野の知識を有し，自主的・継続的に学習することができる。
Ｅ－２）チーム活動を通して，メンバーの同意形成を図り，協調しながら一つの目的を成し遂げることができる。
Ｅ－３）複眼的な思考能力をもとに，創造性を発揮して課題を探求・解決することができる。

（出典　平成23年度学生生活のしおり前書き）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，学校教育法の高等専門学校の目的を踏まえた明確な学則及び教育理念に基づいて，これからの産業社会において必要とされる技術者を育成するため，準学士課程においては４つの教育目標を，さらには専攻科課程の教育目標を定めている。そして，これらの教育目標に基づいて，準学士課程における各専門学科・科及び専攻科課程の各専攻の教育目標，さらにJABEE認定を受けた「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標が定められている。各課程において，本校として養成すべき人材像は，これらの教育目標を達成した学生であるといえる。

以上のことから，本校は高等専門学校としての目的を明確に定めている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

教職員に対しては，学校要覧（資料１－２－①－１），本校ウェブサイト（資料１－２－①－２）等に掲載するとともに，配布して周知しているほか，新任教職員説明会において説明している（資料１－２－①－３）。また，学生に対しては，学生生活のしおり（前述資料１－１－①－２～３），シラバス（資料１－２－①－４），専攻科案内パンフレット（資料１－２－①－５）等に掲載・配布して周知するとともに，準学士課程及び専攻科課程における各課程共通の教育目標と，環境・生産システム工学教育プログラムを学生玄関に（資料１－２－①－６），各学科・科の教育目標と，各学科・科の案内を，廊下に掲示している（資料１－２－①－７）。さらに，準学士課程及び専攻科課程ともに入学時におけるオリエンテーション時にこれらの内容について，関係教員による説明が行われている（資料１－２－①－８）。

平成 22 年 10 月には教職員，準学士課程及び専攻科課程の学生に対し，教育目的の認知状況についてアンケート調査を行った結果（資料１－２－①－９），教員については，ほとんどが「知っている」と解答しており，学生については約半数，職員も 70%程度が「知っている」と解答している。なお，専攻科生では，「環境・生産システム工学」教育プログラムの認知度は，90%程度の高い数値を示している。

資料１－２－①－１

「要覧における教育目標の記載」

校長 President

工学博士　髙橋　英明

D.Eng.　TAKAHASHI, Hideaki

教育目標

本校の教育理念は,将来性ある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成することです。このため,本校の具体的な教育目標を次のように定めています。

1. 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し,豊かな教養と幅広い思考力を養う。また,外国語を鍛え,外国文化に対する理解力を養う。
2. 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により,豊かな創造力と行動力を養う。
3. 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ,広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
4. 自主的に思考し,学習し,行動する習慣を身に付けさせ,心身の健康維持,増進に努めさせる。

【Objectives of Education】

The objective of our education is to train the students to be engineers who, having acquires rich humanity and great possibilities, not only have practical technical skills but also are qualified for further research and development. To achieve this objective, we have practical education objects, as follows:

1. Since liberal subjects are indispensable to cultivating humanity, we teach the students a variety of them so that they can acquire rich culture and thinking ability. We also teach them languages and cultures of foreign countries.
2. We offer the students chances of learning by experience in which we make much of young and fresh sensitivity, experiments and exercises, so that they can acquire rich creativity and a grate drive to take a role in research and development.
3. We teach the students the bases of engineering and technical subjects so that they can acquire a broad engineering viewpoint and the ability of seeing problems from all points concerned.
4. We train the students to have a habit of thinking, studying and acting by themselves, and make efforts to retain and enhance their health.

（出典　平成 22 年度学校要覧 P. １）

資料１－２－①－２

「本校ウェブサイトにおける教育目標の掲載」

独立行政法人国立高等専門学校機構
旭川工業高等専門学校
ASAHIKAWA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

Home　学校案内　学科・専攻科　学生生活　施設情報　各種情報

更新日:2011/04/05

学校案内

- 校長の挨拶
- 校章の由来・校歌
- 本校の歴史
- 本校の組織
- 本校の特色
- 教育システム
- 本校の中期計画
- 自己点検・評価報告書
- 外部評価報告書
- 機関別認証評価
- JABEE
- 学生数
- 就職状況・進学状況
- 入学料・授業料・奨学金
- 入試情報
- 財務情報(PDF)
- 施設配置図
- 交通案内(所在地)
- 問い合わせ先一覧

教育目標

本校の教育理念は，将来性のある人間性豊かな「実践的研究開発型技術者」を養成することです。
このため，本校の具体的な教育目標を次のように定めています。

○本　科

1. 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。
2. 若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。
3. 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
4. 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

各学科の教育目標

- 機械システム工学科
- 電気情報工学科
- システム制御情報工学科
- 物質化学工学科

○専攻科

社会を支える技術者を育成するため，高等専門学校における５年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

各専攻の教育目標

（出典　本校ウェブサイト）

資料１－２－①－３

「高専を取り巻く諸状況について」

教育理念（本科・専攻科）

将来性のある人間性豊かな
実践的研究開発型技術者
を養成すること

教育目標（本科）

①人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。

②若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。

③工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。

④自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

（出典　平成 23 年度新任教職員説明会パワーポイント）

資料１－２－①－４

「シラバスにおける教育目標の記載」

旭川工業高等専門学校(本科)の教育目標

① 人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し，豊かな教養と幅広い思考力を養う。また，外国語を鍛え，外国文化に対する理解力を養う。
② 若く新鮮な感性と実験･実習等を重視した体験学習により，豊かな創造力と行動力を養う。
③ 工学基礎及び専門基礎をしっかり身に付けさせ，広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
④ 自主的に思考し，学習し，行動する習慣を身に付けさせ，心身の健康維持，増進に努めさせる。

機械システム工学科の教育目標

機械システム工学科では，「機械工学に関する基礎的･専門的知識を身に付け，さらに，各々の技術要素を有機的に構成し，新たな社会構築に役立つシステムを創造していく能力を身に付けた，国際的視野を持った技術者」の育成を目指しており，以下の教育目標を掲げている。

① 機械工学に関する基礎的･専門的知識を身に付ける。
② 機械システムを創造する能力を身に付ける。
③ 課題の発見と問題解決のできる能力を身に付ける。
④ 社会環境との調和を多角的に考察できる能力を身に付ける。
⑤ 幅広い視野と豊かなコミュニケーション能力を身に付ける。

一般人文科の教育目標
一般理数科の教育目標
「環境･生産システム工学」教育プログラムの学習･教育目標

（出典　平成 23 年度機械システム工学科シラバス前書き）

資料１－２－①－５

専攻科案内パンフレットにおける教育目標の記載

専攻科の教育目標

本校専攻科は、社会を支える技術者を育成するため、高等専門学校における5年間の課程で培われた工学に関する知識・技術をより深く教授する。

各専攻の教育目標

生産システム工学専攻

機械システム工学科、電気情報工学科及び制御情報工学科で教授した教育内容を基礎とし、それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるように教育課程を編成し、メカトロニクス、エレクトロニクス、コンピュータ応用等の技術が融合した生産システム分野において活躍できる、総合的能力を備えた技術者を育成する。

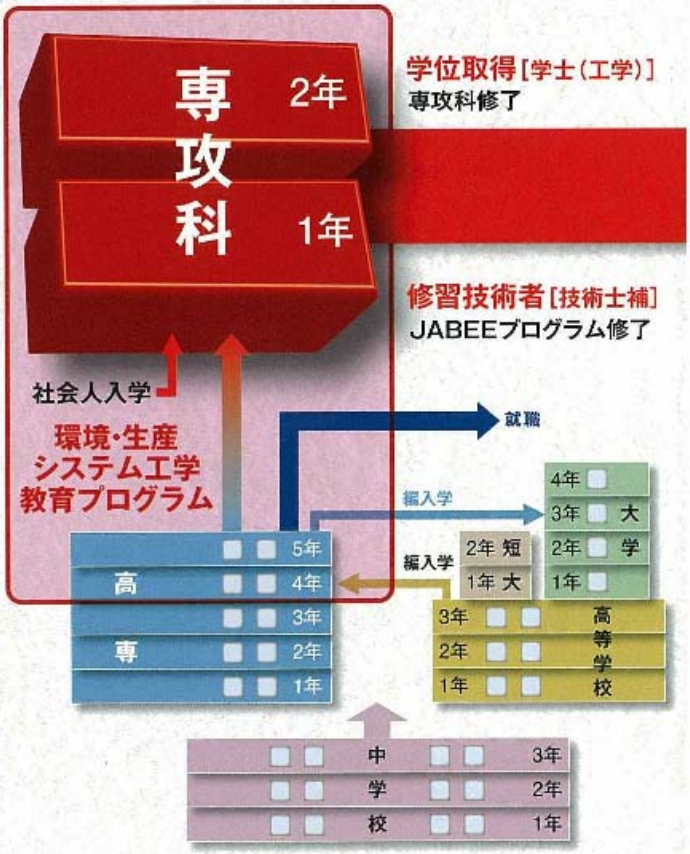
応用化学専攻

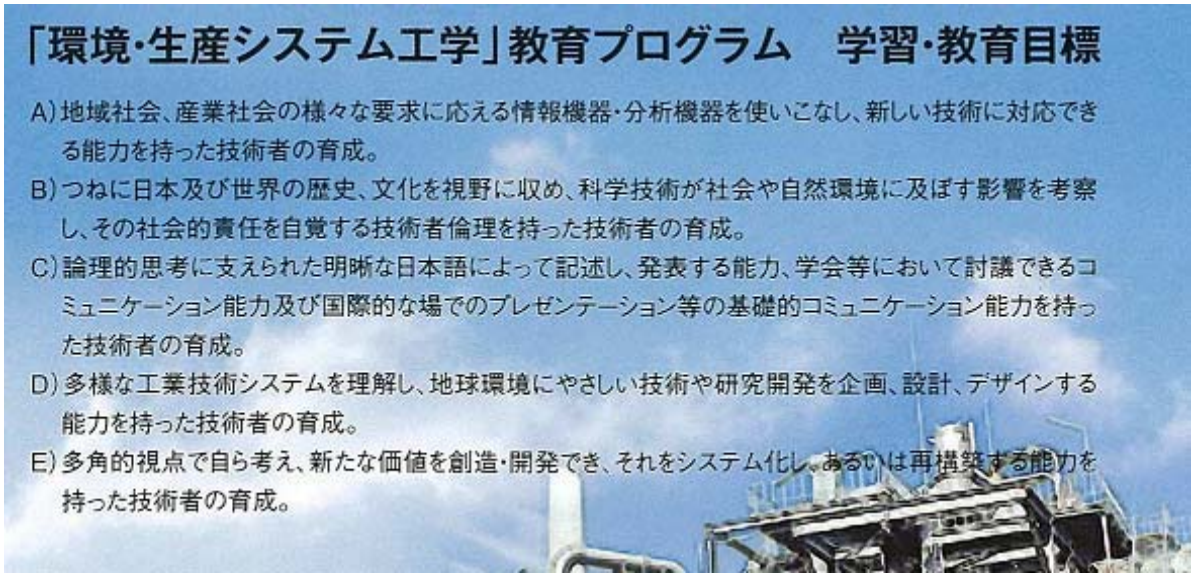
物質化学工学科で教授した教育内容を基礎とし、化学・バイオ関連産業における専門的な実務に携わることを前提とした教育課程を編成し、製品・技術の開発及びそれに伴う環境や社会への配慮等に柔軟に対応できる、総合的能力を備えた技術者を育成する。

本校の「環境・生産システム工学」教育プログラムが、JABEE認定プログラム［工学（融合複合・新領域）関連分野］として認定されています。
専攻科に入学した学生は、全員プログラムの履修者となり、専攻科修了とともにプログラムを修了し、登録すると技術士補の資格が得られます。

Accredited by JABEE Since 2004

環境・生産システム工学
JABEE認定技術者教育プログラム

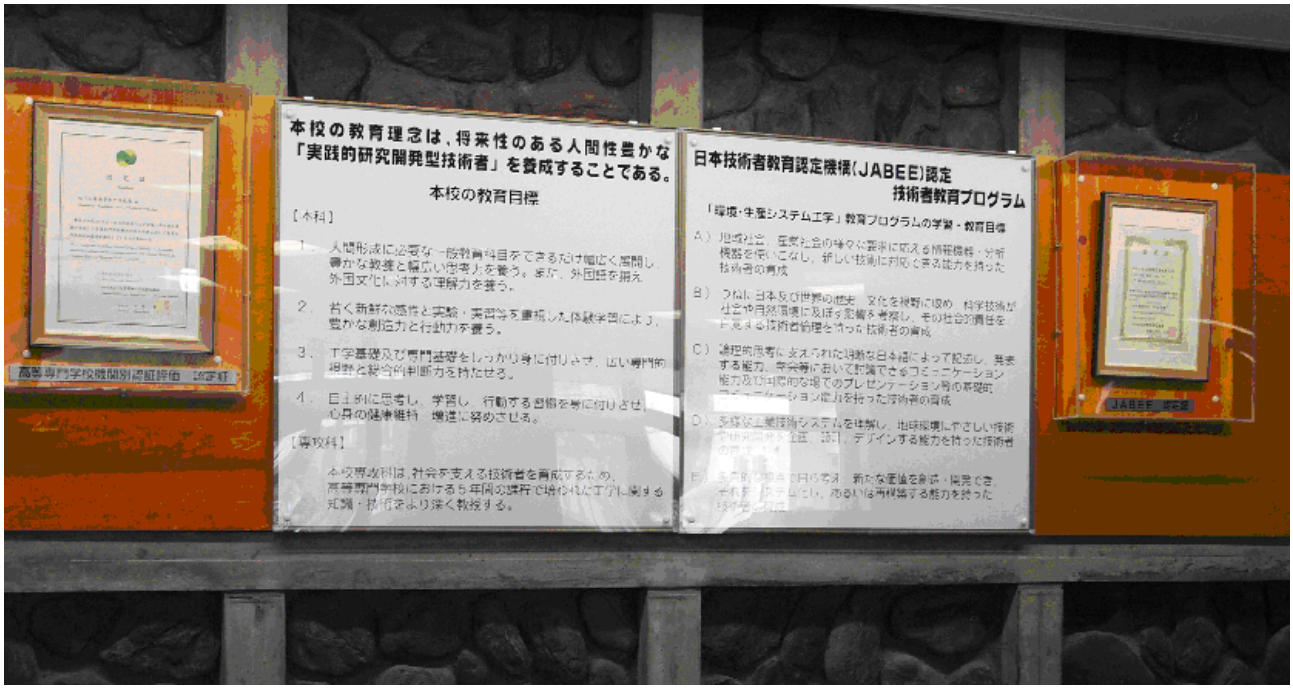




（出典　2012 専攻科案内パンフレット）

資料１－２－①－６

「教育目標等の学生玄関掲示」



（出典　本校学生玄関掲示物）

資料１－２－①－７

「学科教育目標等の廊下掲示」

（出典　本校廊下掲示物）

資料１－２－①－８

「新入生オリエンテーション実施要領」

平成23年度新入生オリエンテーション（留学生含む）
実　施　要　領

日　時　　平成23年４月７日(木)　オリエンテーションⅠ　8：45～ 9：35
　　オリエンテーションⅡ　13：00～14：00
場　所　　オリエンテーションⅠ　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
　　オリエンテーションⅡ　第２体育館

１　オリエンテーションⅠ

時　　間　　8：45～ 9：35
場　　所　　階段教室（１組・２組），講義室１（３組・４組）
出 席 者　　一般人文科長，一般理数科長，第１学年学級担任
次　　第　　一般人文科長・一般理数科長講話・説明
　　※一般人文科長　階段教室→講義室１
　　※一般理数科長　講義室１→階段教室
進　　行　　学年主任（鈴木）（１組・２組）
　　学級担任（青山）（３組・４組）
説明内容　　本校及び一般人文科・一般理数科の教育目標
　　主に学習面について
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学科長講話については，後日，専門科目の授業時に行う（20分程度）。
　　日時は学年主任が学科長に確認する。
　　②オリエンテーション終了後，学級担任は，学生を引率してＨＲ教室へ戻り，
　　学生に椅子を持たせて第１体育館へ誘導する。（クラス写真撮影，対面式）

２　オリエンテーションⅡ

時　　間　　13：00～14：00
場　　所　　第２体育館
出 席 者　　教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，学生相談室長，
　　ｾｸｼｭｱﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長，第１学年学級担任，学生課長，教務係長
次　　第　　教務主事講話　　（20分）
　　学生主事講話　　（15分）
　　寮務主事講話　　（10分）
　　専攻科長講話　　（ 5分）
　　学生相談室長講話　　（ 5分）
　　ｾｸｼｭｱﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ相談室長講話（ 5分）
進　　行　　学生課長
持参させるもの　　平成23年度学生生活のしおり
　　筆記用具
そ の 他　　①学級担任は，学生に椅子を持たせて第２体育館へ誘導する。
　　※移動開始 12：50
　　②３年留学生も受講させる。当該学級担任は，開始時刻までに学生に椅子を
　　持たせて第２体育館へ誘導し，列の最後尾に着席させる。

（出典　H23 新入生オリエンテーション実施要領）

資料１－２－①－９

「平成２２年度認証評価基準に係わるアンケート調査結果（教育目標の認知度）」

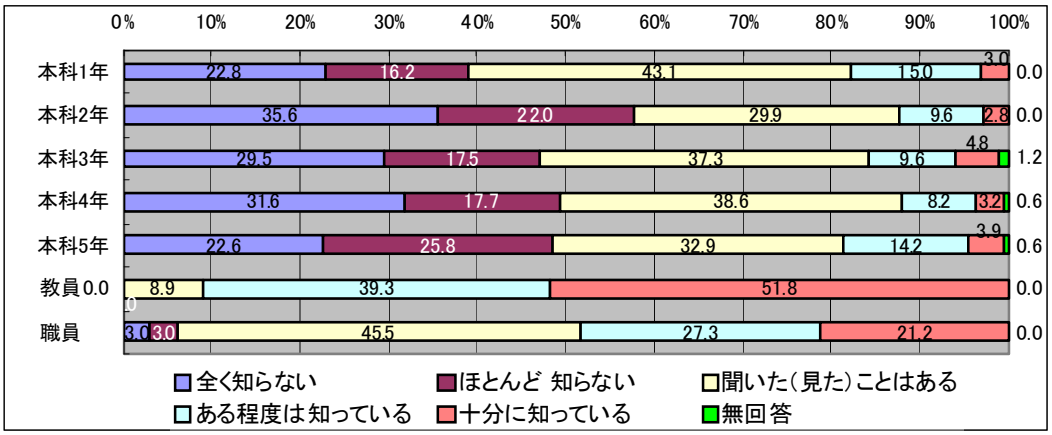
〔準学士課程〕

22年度認証評価基準に係るアンケート調査結果

Ⅰ　教育目標の認知について

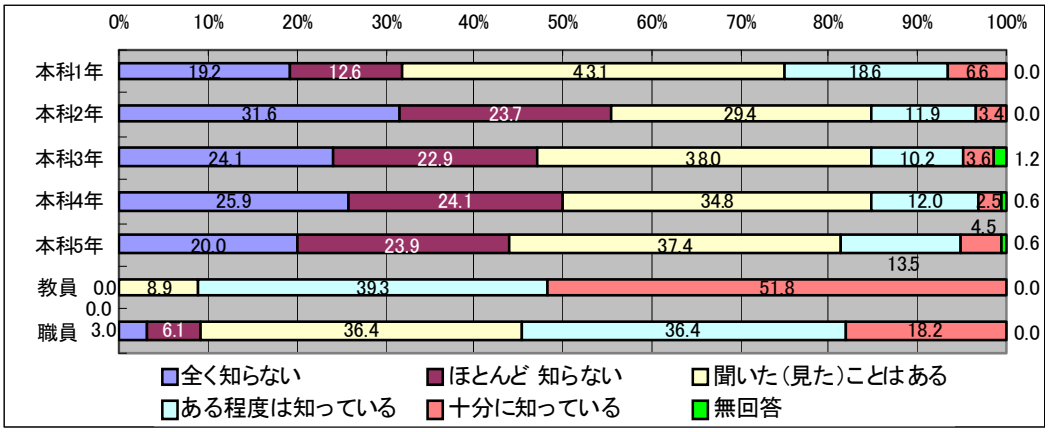
Q1　旭川工業高等専門学校（以下「本校」と称する）の目的は次のように定められていますが、本校の目的を知っていますか。

「旭川工業高等専門学校は、教育基本法の精神にのっとり、かつ、学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」（学生生活のしおり、学則第1条）

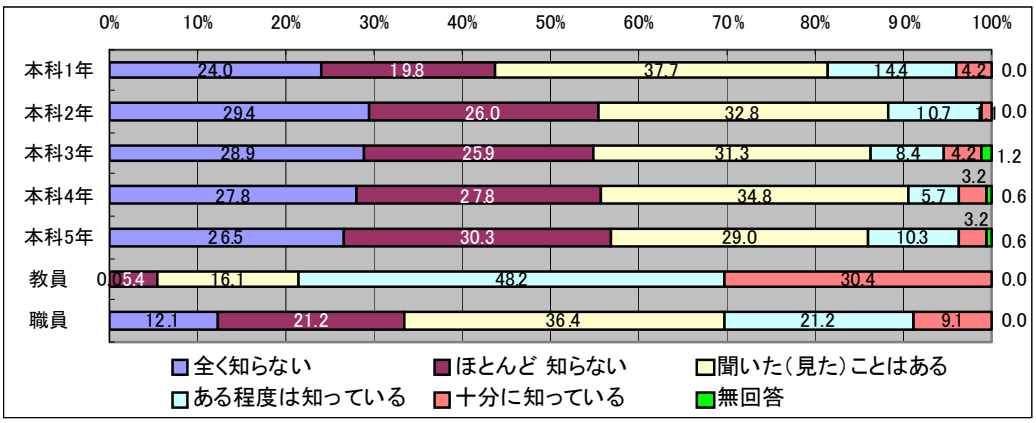


Q3　本校の教育目標は次のように定められ、学生玄関に掲示されていますが、本校の教育目標を知っていますか。

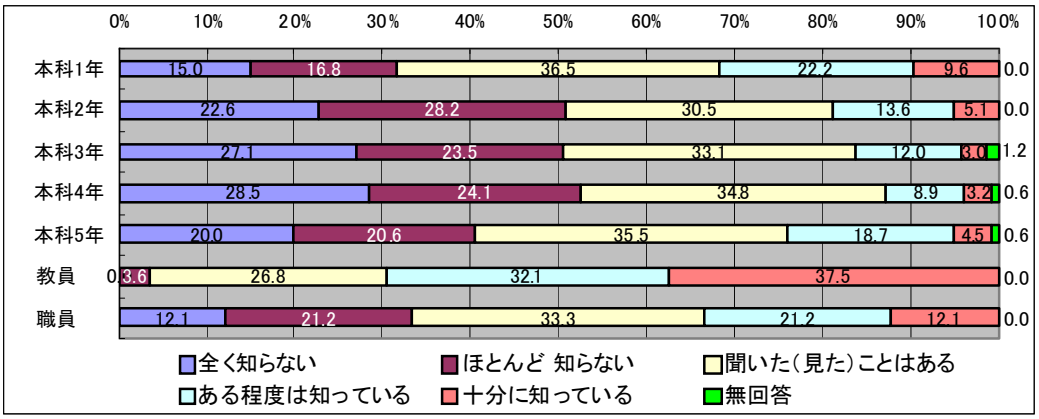
1.人間形成に必要な一般教育科目をできるだけ幅広く展開し、豊かな教養と幅広い思考力を養う。また、外国語を鍛え、外国文化に対する理解力を養う。
2.若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により、豊かな創造力と行動力を養う。
3.工学基礎を及び専門基礎をしっかり見に付けさせ、広い専門的視野と総合的判断力を持たせる。
4.自主的に思考し、学習し、行動する習慣を身に付けさせ、心身の健康維持、増進に努めさせる。



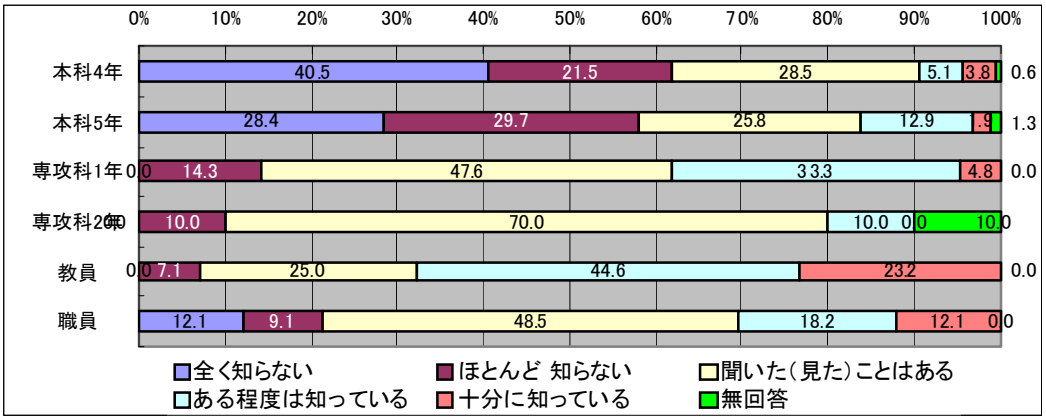
Q5　本校の準学士課程（本科1?5学年）における一般人文科及び一般理数科の教育目標は次のように定められ、校内に掲示されていますが、一般科の教育目標を知っていますか。



Q7　本校の準学士課程における各専門学科の教育目標は次のように定められ、校内に掲示されていますが、専門学科の教育目標を知っていますか（対象は所属学科み）。



Q9　本校の「環境・生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標は次のように定められ、学生玄関に掲示されていますが、学習・教育目標を知っていますか。

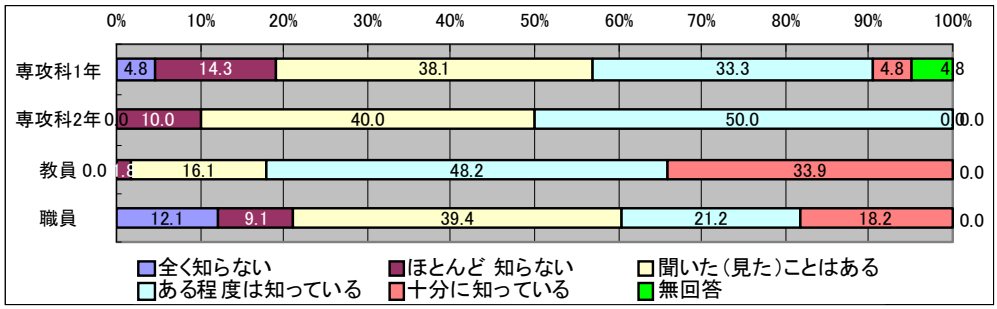


〔専攻科課程〕

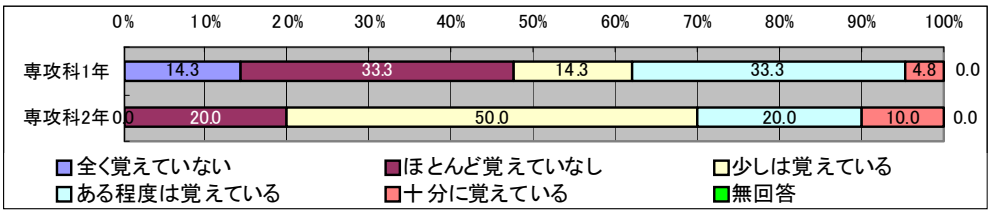
Ⅰ　教育目標の認知について

Q1　本校専攻科の目的は次のように定められていますが、知っていますか。

「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な工業に関する専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。」（学生生活のしおり、学則第41条）

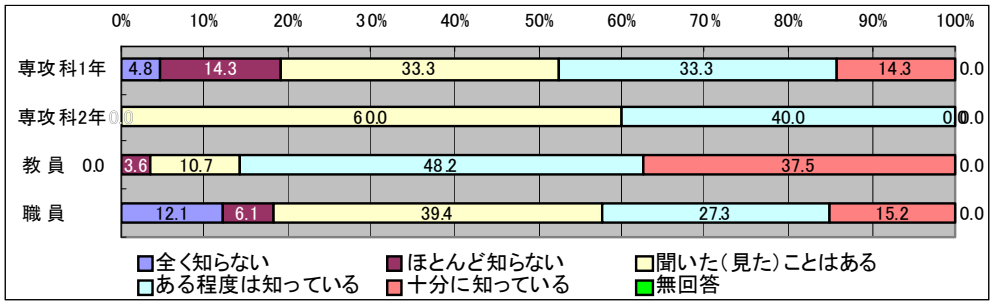


Q2　本校専攻科の目的について、文書等により説明を受けたことを覚えていますか。

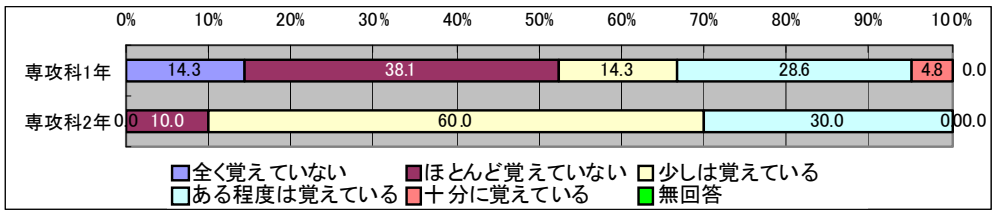


Q3　本校専攻科の教育目標は次のように定められていますが、知っていますか。

高等専門学校における5年間の課程で培われた工学に関する知識・技術の基礎をより深く学び、これからの社会を支える工業技術のスペシャリストの育成を支援する。



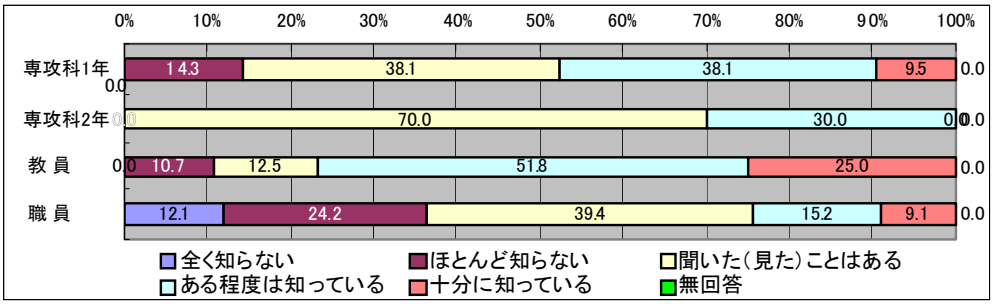
Q4　本校専攻科の教育目標について、文書等により説明を受けたことを覚えていますか。



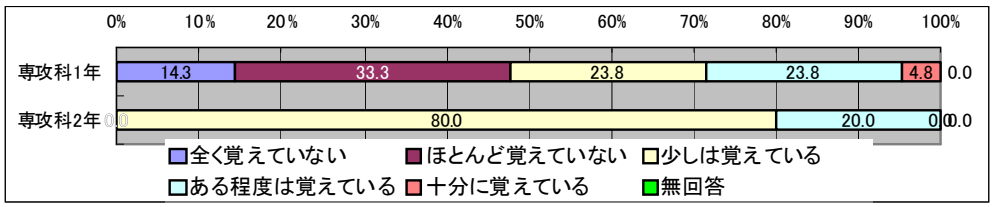
Q5　本校専攻課程における各専攻の教育目標は次のように定められていますが、知っていますか。（対象は所属専攻のみ）

○生産システム工学専攻
　機械システム工学科、電気情報工学科及び制御情報工学科で修得した基礎学力をベースとして、それぞれの専門分野の技術が融合した境界領域分野の諸問題にも対応できるよう教育課程を編成し、コンピュータ利用・応用技術、エレクトロニクス技術、制御技術、情報技術等の技術が結集された生産システム分野において活躍できる、総合的研究開発能力を備えた技術者を育成する。

○応用化学専攻
　物質化学工学科で習得した基本技術・知識をベースとして、材料化学、化学工学、バイオテクノロジー等に関係する広範な専門分野の諸問題（食糧問題、エネルギー問題、環境問題等）にも対応できるよう教育課程を編成し、地球環境にやさしい工業製品や新技術の研究・開発等に柔軟に対応することができる、創造性豊かな研究開発型の実践的技術者を育成する。



Q6　所属専攻の教育目標について、文書等により説明を受けたことを覚えていますか。



（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育理念及び教育目標については，教職員や学生に対し様々な印刷物の配布，説明会や掲示等によって周知を図っている。目的の周知度を測るアンケートの結果を見ると，教職員や専攻科課程の学生については，十分に周知されているといえる。準学士課程の学生については，半数程度の学生が「知っている」と答えている。

以上のことから，目的は，本校構成員におおむね周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育理念，教育目標，育成する技術者像等々についての社会に対する公表実態については，本校ウェブサイトへの掲載（資料１－２－①－２（12ページに前出））とともに，学校要覧（資料１－２－①－１（11ページに前出））や学校案内（資料１－２－②－１）等の冊子に掲載し，これらを道内全域の中学校，関係機関へ配布している。また，旭川市内及び道内各地の進学説明会（資料１－２－②－２），本校における体験入学と同時に開催する進学説明会（資料１－２－②－３）あるいは中学校訪問（資料１－２－②－４），学習塾訪問（資料１－２－②－５），企業訪問時等の適切な機会を利用して配布し（資料１－２－②－６），入学者選抜委員会の委員を中心に口頭により説明している。

資料１－２－②－１

「学校案内における教育目標の記載」

（出典　学校案内 2011）

資料１－２－②－２

「進学説明会」

旭川高専進学説明会

平成 24 年度入学者募集に関する説明会を開催します。本校の内容，各学科の紹介などもいたしますので，中学生，保護者の方をはじめ，中学校の先生，学習塾の方など，どなたでもご興味のある方はぜひお集まりください。

★　旭川高専の特色　★

- 希望者の就職率はほぼ 100%！求人倍率は 17～22 倍（平成 22 年度）で，企業からの人気抜群！
- 進学希望者のほぼ 100%が現役で高専専攻科及び国立大学へ進学！進学実績にも自信あり！
- 恵まれた教育・研究環境と軽い経済負担！（１～３年生までは，「就学支援金」の対象です。）
- 専攻科で大学卒業者と同等の学士の学位を取得！
- ロボコン優勝・大賞３つ獲得に裏付けられる「ものづくり教育！」
- 教育の質は国際標準！（JABEE 認定校）

★　説明会開催日時・会場　★

開　催　日　時	会　　場
７月３０日(土)　①１０:３０～ ②１４:００～	**旭川工業高等専門学校** 旭川市春光台２条２丁目１番６号
７月３１日(日)　①１０:３０～ ②１４:００～	
９月　３日(土)　①１３:３０～ ②１４:３０～	**北海道大学工学部Ｂ棟講義室** **（道内国立高専合同入試説明会）** 札幌市北区北 13 条西８丁目
９月１０日(土)　１３:００～	**帯広市民文化ホール** 帯広市西５条南 11 丁目 48 番地２
９月１７日(土)　１３:００～	**旭川工業高等専門学校** 旭川市春光台２条２丁目１番６号
１０月　１日(土)　１３:００～	**北見芸術文化ホール『きた･アート 21』** 北見市泉町１丁目 2-22
１０月　２日(日)　１３:３０～	**永山住民センター** 旭川市永山７条４丁目
１０月　９日(日)　１３:３０～	**北海道教育大学札幌駅前サテライト** 札幌市中央区北５条西５丁目（SAPPORO55 ビル４階）
１０月１０日(月)　１０:００～	**北海道大学学術交流会館（道新進学フェア）** 札幌市北区北８条西８丁目
１０月１５日(土)　１１:００～	**旭川市科学館『サイパル』** 旭川市宮前通東
１０月２９日(土)　１０:３０～	**江別市野幌公民館** 江別市野幌町 13-6

お申込みは不要です。お気軽にご来場ください！

★　学校見学　★

ご連絡いただければいつでもご案内します。平日は授業の見学や食堂の利用もできます。
休日もご案内します。お気軽にお電話ください。

★　お問い合わせ先　★

旭川工業高等専門学校　学生課入学試験室
旭川市春光台２条２丁目１番６号
TEL 0166-55-8121　　e-mail g_nyushi@asahikawa-nct.ac.jp

（出典　本校ウェブサイト）

資料１－２－②－３

「体験入学開催時の進学説明会」

「2011 旭川高専体験入学--進学説明会同時開催--」実施要項（案）

１　目的

中学生を対象とした体験入学を実施することにより，理工系分野の魅力について理解を深めてもらう。特に，科学技術に関して実験実習や施設見学も通じて興味や関心を持てるように工夫することにより，理工系分野の学問の意味及び重要性を考え，将来の進路選択の一助とする。

また，進学説明会及び進学相談を併せて実施する。

２　日時

平成２３年７月３０日(土)・３１日(日)　10：30～16：20

（全体的なプログラムは 15：30 まで）

＊省略

別紙（実施要領）

１　体験入学

時　　間：[１班] 13：35～15：30　　[２班] 10：30～12：25

集合場所：講義室１

実施場所及び内容：

機械ｼｽﾃﾑ工学科　　機械創造演習室　「動くロボットを作って遊んでみよう」

電気情報工学科　　電気情報実験室

「電子工作とプログラミングで自在に光をだしてみよう！」

ｼｽﾃﾑ制御情報工学科　CAD/CAM 計算機室　「パソコンを使って設計図を書こう」

物質化学工学科　　生化学大実験室

「楽しい化学実験♪～色々なポリマーを使った実験～」

補助学生人数：機械ｼｽﾃﾑ工学科　６人，電気情報工学科　５人

ｼｽﾃﾑ制御情報工学科　８人，物質化学工学科　10 人

※寮の見学希望者を確認し，時間厳守で終了させること。

２　進学説明会

時　　間：[１班] 10：30～11：10　　[２班] 14：05～14：45

場　　所：階段教室

次　　第：（司会：学生課長）

校長挨拶（1 分）

本校の紹介及び募集要項等入試説明（30 分）

質疑応答（4 分）

配付資料：募集要項・学校案内・専攻科案内・アンケート用紙

（出典　学生課資料）

資料１－２－②－４

「中学校訪問」

月日	担当者	訪問地域	出発時間	訪				
8月25日(水)	篁	市内・鷹栖	9:00	9:30 東光	10:00 北都	10:30 明星	11:00 常盤	13:30
8月26日(木)	今野	美深・中川・幌延・豊富・稚内・猿払・浜頓別・枝幸	8:30	10:00 美深	11:30 中川 11:00希望	13:30 幌延問寒別	14:45 豊富	15:15
8月27日(金)			8:30	9:00 稚内	9:30 稚内南	10:00 稚内潮見が丘	10:30 稚内東	12:00
8月31日(火)	石井	三笠・赤平・芦別	8:30	10:30 三笠中央	11:00 三笠	13:30 赤平	14:00 赤平中央	14:45
9月 1日(水)	橋本	名寄・士別・剣淵・和寒・比布・当麻	8:30	10:00 名寄	11:00 名寄東	12:00 士別	13:30 士別南	14:00
9月 2日(木)	吉本	士別・下川・名寄・幌加内	8:30	9:30 士別朝日	10:30 下川	11:30 名寄智恵文	13:30 名寄風連	14:30
9月 3日(金)	津田	札幌	8:30	11:00 札幌東栄	11:30 札幌北辰	12:00 札幌明園	13:30 札幌元町	14:00
9月 4日(土)		※札幌		9:30 保護者懇談会	13:30 合同入試説明会			
9月 7日(火)	今野	美唄・滝川	8:30	10:00 美唄峰延	10:30 美唄	11:00 南美唄	11:30 美唄東	13:30
9月 8日(水)	津田	小樽・札幌	8:30	11:30 小樽塩谷	12:00 小樽長橋	13:30 小樽北山	14:00 小樽末広	14:30
9月 9日(木)			8:30	9:30 小樽潮見台	10:00 小樽桜町	10:30 小樽望洋台	11:00 小樽朝里	11:45
9月10日(金)	津田	新得・音更・帯広	8:30	11:30 新得	12:00 新得屈足	14:00 音更	14:30 音更共栄	15:00
9月11日(土)		※帯広		10:00 保護者懇談会	13:00 進学説明会			
9月14日(火)	長岡	南富良野・富良野・中富良野	8:30	10:30 南富良野	11:30 富良野山部	12:00 富良野布部	13:30 富良野布礼別 麓郷から変更	14:30
9月15日(水)	今野	市内	9:00	9:30 嵐山	10:00 忠和	10:30 神楽	11:00 東明	11:30
9月16日(木)	津田	鹿追・士幌・上士幌・足寄池田・幕別・帯広	8:30	11:30 上士幌	12:00 士幌町中央	13:30 鹿追瓜幕	14:00 鹿追	15:30
9月17日(金)			9:00	9:30 幕別札内	10:00 帯広第六	10:30 帯広第三	11:00 帯広第四	11:30
9月18日(土)	津田	旭川高専		13:00 進学説明会				
9月30日(木)	古崎	江別	8:40	10:30 江別大麻東	11:00 江別大麻	11:30 江別野幌	12:00 江別第二	13:30
10月 1日(金)	津田	北見	8:30	9:30 上川	10:30 遠軽白滝	11:30 丸瀬布	13:30 遠軽	14:00
10月 2日(土)		※北見		10:00 保護者懇談会	13:15 進学説明会			
10月 3日(日)	津田	※旭川永山		13:00 進学説明会				
10月 5日(火)	今野	岩見沢	8:30	10:00 岩見沢豊	10:30 岩見沢上幌向	11:30 岩見沢清園	12:00 岩見沢光陵	13:30
10月 6日(水)	篁	中富良野・上富良野・美瑛・東神楽・東川	8:45	10:00 上富良野東中	10:30 上富良野	11:15 美瑛美馬牛	12:00 美瑛	13:30
10月 8日(金)	津田	日高・鵡川・厚真・安平	8:30	11:30 日高門別	12:00 日高富川	13:30 鵡川	14:15 厚真厚南	15:00
10月 9日(土)		※江別		13:00 進学説明会				
10月12日(火)	冨永	奈井江・岩見沢・新篠津・当別・石狩・札幌	8:45	9:30 奈井江	10:30 岩見沢北村	11:00 新篠津	11:45 当別	13:30
10月13日(水)	津田	上川・滝上・紋別・興部・西興部雄武・湧別・佐呂間・北見・網走・遠軽	8:50	9:30 愛別	11:00 滝上	11:30 紋別上渚滑	13:30 興部	14:30
10月14日(木)			8:30	9:30 興部沙留	10:15 渚滑	10:45 紋別潮見	11:15 紋別	13:30
10月15日(金)			8:30	9:30 網走第四	10:15 網走第三	10:45 網走第一	11:15 網走第二	12:00
10月18日(月)	津田	占冠・清水・芽室・帯広更別・中札内	8:30	11:30 占冠	13:30 占冠トマム	14:30 清水	15:15 芽室西	15:45
10月19日(火)			8:30	9:30 更別中央	10:00 中札内	10:45 帯広清川	11:30 帯広第七	12:00

資料１－２－②－５

「学校案内配布学習塾の一部」

	学習塾
1	旭川練成会
2	秀英予備校旭川本部校
3	たいせつゼミ
4	ニスコ進学スクール旭川本部
5	北大学力増進会旭川本部
6	ITS進学センター旭川運営本部
7	旭川大町学習塾
8	旭川学習館
9	株式会社栄進ゼミナール出版旭川支店
10	エミール学習塾
11	MPSリベラ
12	開成塾
13	開明塾
14	楽集館
15	学研教室　北海道事務局旭川分局
16	旭進学院
17	KUMON旭川事務局
18	慶応學舎
19	慶学館旭川運営本部
20	光星進学館
21	ジー・エム・シー学習塾
22	志学館
23	智望塾
24	ひかり総合教育本部
25	古川塾
26	フレンド学習塾
27	学びの森
28	学舎

（出典　学生課資料）

資料１－２－②－６

「学校要覧配布先」

配　付　先	部数	備考
文部科学省高等教育局専門教育課	1	
国立高等専門学校機構	1	
名誉教授	35	
学内（教職員等）	107	※1
来校者	150	（学生課・総務課各 75 部）
産学連携関係PR用	215	
企業訪問（学生係）	100	
運営懇話会，後援会等（総務係）	75	
教職員採用（人事・労務係）	160	
予備	56	
計	900	

※１　（内　　訳）

教員	６３
職員	４０
図書館	1
情報処理ｾﾝﾀｰ	1
地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ	1
学生相談室	1

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育理念・教育目標の公表は，ウェブサイトに掲載しているほか，学校要覧および学校案内に掲載しており，中学校・企業等に対して，訪問時の説明や印刷物の配布の手段をとっている。

以上のことから，本校の目的は，社会に対して十分に公表・周知されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・　本校の教育理念や教育目標を学生玄関に，また，各学科の教育目標や特徴を廊下に掲示することにより，目的の周知に積極的に取り組んでいる。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準１の自己評価の概要

本校の目的・社会的使命として，教育理念に基づいた教育目標が準学士課程及び専攻科課程の各学科（科），専攻それぞれについて定められている。また，技術者教育プログラムとしてJABEE の認定を受けた「環境・生産システム工学」教育プログラムにおいても学習・教育目標が明確に定められている。これらは，本校において準学士課程及び専攻科課程の５年間又は７年間の教育を受けた学生が，それぞれの専門分野において有能な技術者として活躍ができるために習得すべき技術・知識を示したものである。以上の内容は，学校教育法第 115 条に規定された高等専門学校一般に求められる目的に適合している。

これらの目的は，学校要覧，学生生活のしおり，学校案内あるいはシラバス等々の各種資料に記載されており，学生生活のしおりやシラバスを全教職員及び全学生に配布するとともに，学生に対しては，入学直後のオリエンテーション時，あるいは年度初めの始業式等において周知している。

一方，これらの目的は，本校ウェブサイトへの掲載を始めとし，学校要覧，学校案内，専攻科パンフレット等に掲載し，学生募集活動の一環としての中学校訪問，旭川市内及び道内各地における入試説明会あるいは進学説明会等のあらゆる機会を利用して，中学生，保護者，中学校教員及び企業関係者に対して配布・説明し，周知徹底を図っている。